

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 13 日

事業所名 放課後等デイサービスぱぴぷぺぽ

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5名	2名		勉強と遊び場を分けている。	日によってスペースが狭く感じる時があるので、移転も含めてスペース確保ができるようにする。
	2 職員の配置数は適切である	7名			配置基準を満たし、適正な運営ができています。	福祉経験者等の有資格者だけでなく、様々な経験を持つ方の採用も行い、子ども達の成長に繋がるような支援を展開していく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5名	2名		勉強と遊び場を分けている。	階段や段差があるので、手すりの設置を速やかに行う。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5名	2名		定期的なMTGに加え、何かあった際には速やかに会議を行っている。	日々のスタッフ間の連携と事業所ミーティング、定期的に行っている法人会議等を継続して実施していく
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5名	2名		アンケート結果をもとに、改善に取り組んでいます。	指摘された事項はしっかりと受け止め、スタッフミーティング・法人会議等で改善をしていく。また、関係機関等との連携を行い、開かれた事業所作りに励んでいく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5名	2名		HPの公開後、連絡帳を通して保護者様に通知している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5名	1名	1名	協力会社による定期的な評価がある。	今後は協力会社のみでなく、外部企業への評価依頼を取り入れたい。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7名			年4回、外部講師へ依頼して研修を行っている。	外部開催の研修等に管理者だけでなく、スタッフが参加できるように職員間で協力しながら対応していく。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6名	1名		同法人にいる書類管理スタッフが定期的に研修やスタッフの意向等を踏まえて書類を見直し、児童・保護者のニーズを反映した書類になるよう努めている。	管理者を中心として、スタッフ全員で計画作成会議を行うことで多くの視点での意見が出るので幅広い支援が提供できている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5名	2名		事業所だけでなく、法人のバックアップを受けながら他者が行っていないようなプログラムを組むように心がけている。	基本的なアセスメントシートを基本として、独自のシートを作成して活用している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5名	2名			おとなしい児童に対しても目に見えない部分に着目できるよう考えていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7名			全スタッフにアイデアを出してもらい、マンネリ化しないよう工夫している。	職員主体で決定するプログラムが多い。今後は児童主体となって活動を考え、自主性を育めるような取り組みを取り入れていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6名	1名		平日、長期休暇には課題をもとに活動している。	平日下校後の時間をもっと有効活用していく。夏休みなどの長期休暇は海の活動など多様な体験ができていたので継続していきたい。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6名	1名		児童によっては偏りもあるが、両方できるように作成している。	活発な児童が多い為、個別活動が必要な場面時に空間配慮が間に合っていない事がある。児童と話し合い、部屋の使用方法等を今後決め、それに準じて計画書に反映していく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6名	1名		決まった行事があればそれに対して確認するようにしている。	今後も連携不足がないように定期的なミーティングを継続し、PDCAサイクルに取り組んでいく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6名	1名		気づいた事や気になった事があればその都度共有している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7名			日々の記録と改善、検証はしっかりとできている。	活動に追われ記録が単調になりやすい。しっかり一人一人の個別計画に沿って記録ができるように心がけていく。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7名			定期的なモニタリングとは別に、必要時に適宜行いサービスを見直している。	モニタリング終了後は、管理者のみでなくスタッフ全員に共有できている。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7名			基本活動の中でも特に「社会生活や経験の範囲が制限されないようにする」事に重点を置き、障がいのない子ども以上の体験に参加できるようなプログラム作りに励んでいる。	

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6名	1名		管理者・サビ管だけでなく、同一法人の相談員に必要に応じて協力要請し一緒に参加して助言いただく等している。	今後も管理者・児発管だけの管理者だけでなく法人一体となってよ利用会議になるよう努めていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7名			送迎の際に、担任教師とコミュニケーションをとり、連絡不足のないようにしている。	連絡調整ミスによる下校時刻間違い等が起きないように、保護者・学校・本人への調整を密に行うと同時に職員間でも「いつ、誰に確認した」等を意識して曖昧な情報にならないように心がけていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6名	1名		現在、医療的ケアが必要な児童はいません。	今後、医療的ケアが必要な児童を受け入れた際に対応できるように準備しておく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6名	1名		必要時には行っている。	「何も問題ない」からではなく、定期的交流を持って、情報共有できるようにしていく。また、引き継ぎ書類等を作成し、情報提供できるように心がけていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7名				現時点で、該当児童がまだいません。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7名			定期的な研修を受けている。	発達センター等が主催する研修会には参加できる範囲で参加しているが、助言等を求める関係性はできていない。今後、関わりを持てるように調整していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4名	2名	1名	近くにある児童館へ行き、多くの子供と接する機会を作っている。	今度はもっと頻度を増やしていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2名	4名	1名	協議会の参加はないが、町が実施する研修等へは参加し、また日々の取り組みを会議等を通してご理解いただいている。	自治会への加入等、もっと幅広く深く関わってきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7名			事業所での様子を送迎時に話したり、コミュニケーションをとるようにしている。	少しでも気になる点があれば、送迎後に保護者へ連絡して報告し、改めて今後の支援に「ついて相談している。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5名	2名		保護者向けの研修機会(子育てサロン)を設けている。	保護者の意見を踏まえつつ、必要に応じて定期的なペアトレ開催等を検討していく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7名			契約時や内容変更時、ご家族様の要望時などに行っている。	契約の際に説明して同意を得ている。また、契約後も要望があれば再度説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7名			連絡帳や電話、メール、LINEを活用して助言したり悩みを聞いている。	法人相談員を活用し、「相談できます」を告知し、保護者が相談しやすい環境を整備していく。また、発達支援等に関する講演会や勉強会がある際は保護者への案内等も積極的に行なっていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7名			親子参加でのBBQを行い、親睦をとれる機会を作っている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7名			苦情についてはすぐに上司へ報告し、全体で共有している。	苦情解決に関しては事業所担当者だけでなく、法人解決責任者にも報告し、早急な対応ができるようにしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7名			定期的なブログの更新と、お便り等で発信している。	LINEやメールももっと活用して、より細かな情報を発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	7名			鍵付き棚にて保管している。	事務所内に児童が出入りする機会も多い為、ファイル等が置きっぱなしにならないようにする。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7名			口頭で伝えたり、手話、筆談等で意思の疎通を図っている。	タブレット端末などを取り入れて、最新の技術を活用したい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3名	4名		保護者のニーズを考えると、難しい部分もある。	地域住民を招待できるような業務を実施していない。行事計画を立てる中で該当する行事を実施する際は招待できるように普段から地域交流を実施していく。

		チェック項目	はい	どちらとも えない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7名			感染症など、その都度流行に対して情報発信している。	保護者の皆様のと共有が完璧ではない為、避難訓練実施時は避難方法・経路図・連絡方法等を書面・ブログ等を通してお知らせしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7名			防災の日など、定期的に訓練を行っている。	今後も定期的に開催、実施して常に最新の情報を取り入れていけるようにする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7名			県主催の研修会に参加して情報の更新をしている。	今後も定期的に開催、実施して常に最新の情報を取り入れていけるようにする。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7名			契約書・重要事項説明書に記載し、また本人の特性を事前に個別支援会議で確認し、両親の対応等を確認している。	引き続き、利用開始時に個別支援会議を実施し、本児の特性を理解する事を心がけていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7名			アレルギーに対して、アンケートを取り対応している。	アレルギーのみでなく、病院受診後は診断書等の情報をもらい、児童の健康管理に努めている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7名			事例が起きた際は職員間で再度、注意喚起と防止法について話し合っている。	環境等を整備し、事前に防げるよう確認する事を心がけていく。